

埼玉からの提案

情報と交流

～潤いのある人と人とのかかわり合い～

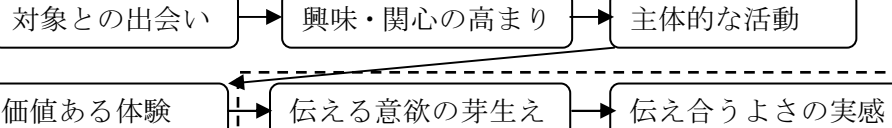
情報と交流とは

今回の学習指導要領の改訂では、内容及び内容の取り扱いの改善において、伝え合い交流する活動の充実があげられている。学習指導要領の移行措置期間である現在、全面実施に向け各校とも試行錯誤し、年間指導計画に新しく設けられた内容（8）をどのように位置付けるかを模索しているところではないだろうか。こうした状況をふまえて埼玉大会では、「潤いのある人と人とのかかわり合い」をキーワードとした「情報と交流」の提案をしたい。

情報と交流とは：多様な情報手段によって伝え合うとともに、他者とのかかわりを通してコミュニケーションを深めること

情報と交流における学びのプロセス

情報と交流における学びのプロセス



子どもは、身の回りにある様々な対象に興味・関心を抱く。対象とのかかわりを通して得た気づきを互いに発信することができるような授業を構想したい。そのためには、身近な人に伝えたいと思うような価値ある体験を通して、気づきを交流し、互いに認め合い高め合う中で、伝え合うよさを実感できるようにすることが求められる。対象とのかかわりから得た気づきを様々な方法で表現することが基調提案の「自ら学ぶ」子どもの姿につながる。

一人一人の気づきは、互いに交流することで深まっていく。互いの気づきをつなげて一つの推論を得たり、自分の疑問の答えが友達の表現の中に見付けられたりする。「自ら学び」それを発信することで、互いの違いに気付いたり、共感したり、つなげて考え、新たな気づきを生み出したりすることで、伝え合うよさを子どもに実感させることができる。対象とのかかわりから得た情報を交流することで、さらに深まっていく学びを実感することが、子どもの豊かな人間関係の構築につながり、学ぶ意欲となっていくと考えられる。

生活科の究極の目標は「自立への基礎を養う」ことである。実生活で子どもが社会の一員として良き生活者となるためには、社会の中で学ぶという環境が大切である。社会の中で学ぶことができるよう校外での活動を意図的に計画し、人とのかかわりに重点を置いた授業を構想し感情の交流も図れるようにしたい。社会に出て行くことで、子ども達は試行錯誤しながら適切な態度について学び、地域の一員として、自分に期待されていることに気づき、それに応えようとする意識をもつようになる。

交流するよさ

共感する
違いに気付く
つなげる
分からないことが
分かる



自ら学ぶことが
できたという成就感

伝え合うよさの実感
→豊かな人間関係

「情報と交流」の
具体的な手だて

対話の役割

- ・ 気付きを自覚する
- ・ 思いの本質を
見極めようとする
- ・ 分からないことに
気付く
- ・ 意味付けられ
整理できる
- ・ 価値付けられ
意欲が増す
等

手立て2

活動を振り返る
↓
交流する

- ・ 伝えたい意欲の
高まり
- ・ 無自覚な気付きの
自覚化
(気付きの質の高まり)
- ・ 達成感・成就感
- ・ 情報の交流
- ・ 感情の交流

手だて1 教師との対話を通して学ぶ意欲を高める

子どもの思いを拾い集め、学習のねらいを意図した種をまく。「〇〇は、どんぐりの宝箱みたい。みんなで行ってみたいね。」「あのお店は、げんこつみたいに大きくておいしいシュークリームがあるんだって。」子どもの情報を種に見立てて子どもの心にまく。次第に子どもから「みんなで行ってみようよ。」という声があがり、子どもの思いが高まったところで子どもの願いをかなえるという形で単元の導入としたい。



げんこつシュークリームは、本当にげんこつみたいに大きいんだよ。春夏にはゼリーもあるんだって。



シュークリームだけじゃなくてゼリーもあっていました。ゼリーは春夏にははまひやしていませんでした。げんこつシュークリームは月～金曜日は200こつくるって言っていました。たぶん学校が休みだからかいてくる人がいっぱいいたって思いました。

大きく描かれたシュークリームには、子どもの思いがこめられている。

T「何でげんこつの大きさにしたのかな？」

C「・・・。」「また行って、聞いてくる。」

手だて2 振り返り 交流する場を設定する

対話を通して分からないことを自覚→学ぶ意欲（探検への意欲）となる

互いに伝え合う中で、「へえ、そうなんだ。」「すごいね。」等の相手の温かい聞き方が伝えたい思いを引き出す。「なんで？」という問いに答えようと、自分自身の中に点在していた気付きをつなげて考えたり、経験と照らし合わせたりして、無自覚だった気付きを自覚する。

町探検では、自分達の見付けた「町のすてき」を保護者に伝えた。保護者には、事前に質問してくれるようお願いをして、子どもの無自覚な気付きを引き出してもらうようにした。

保護者「何でサンヴェールさんという名前なんですか？」

C「サンは太陽で、ヴェールは森ってという意味です。」

保護者「すごい。本当にいろいろなことを探検して見付けてきたんですね。」

自分達が努力して得た様々な情報を工夫してまとめ、質問に答えられるようになったことを価値付けてもらい、自分の活動への自信を深める。

繰り返し探検して、地域の人とかかわることで、子どもたちは自分がかかわった人や店、場所への愛着を深める。繰り返し訪れる子どもたちへの地域の人々の温かい思いは、子どもたちに伝わる。情報だけではなく感情の交流も図れるのである。

情報を交流することで、無自覚だった気付きを自覚したり、自分の活動への自信を深めたりするよさがある。また、学ぶ意欲が高まり、それが次の学びへとつながり、学んだことが生きてはたらく知恵となり、生活化につながることも多い。交流場面を意図的に設け、そこで深められる学びを見取り、対話などを通して評価することを心掛けたい。